

# 予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

## 事業名 【新】データ活用イノベーション推進事業費補助金 (R 8 分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 スマート農業推進係 電話番号：058-272-1111(内4023)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 10,000 千円 (現計予算額： 0 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	10,000	5,000	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額	10,000	5,000	0	0	0	0	0	0	5,000

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

高齢化や人口減少が進み、農業経営体の減少が深刻化する中、県農業の生産力向上と持続性の両立を実現するためには、デジタル技術等を活用し大幅な増収や高品質化を実現するなど、農業に革新的なイノベーションをもたらすDX(デジタルトランスフォーメーション)を進めることが重要である。

そのため、農業分野におけるDX(農業DX)の推進を目的に、農業DXプラットフォーム等のデジタル技術の導入を促進する必要がある。

### (2) 事業内容

農業DXプラットフォーム等のデータを活用したサービス、アプリを導入して作物の増収や高品質化を図り、自身の経営の発展を目指す農業者等に対し、導入に係る費用の一部を補助する。

### （３）県負担・補助率の考え方

県農業の生産力向上のために必要な取組であることから、県負担は妥当である。  
補助率：1/2以内 ※他部局で実施している類似事業を参照

### （４）類似事業の有無

無し

## ３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	10,000	飛騨農業再生協議会、飛騨蔬菜出荷組合、岐阜ばら会
合計	10,000	

## 決定額の考え方

## ４ 参 考 事 項

### （１）各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027年度）  
Ⅱ - 3 - （３） - ② 「未来を支える農業・農村づくり」の推進
- ・ぎふ農業活性化基本計画（2026～2030年度）（仮称・令和８年３月策定予定）  
Ⅱ 潜在力をフル活用した生産強化  
１ 農畜水産物の供給力強化
- ・岐阜県スマート農業推進計画（第2期）（2023～2026年度）  
重点施策（６）農業DXプラットフォームの構築
- ・岐阜県DX推進計画（2022～2026年度）第２章 - Ⅲ - 1 2 - （１）  
① 農業DXプラットフォームの構築による収量・収益の向上  
② 生育・環境データ等に基づく管理・診断技術による生産管理の高度化

### （２）国・他県の状況

国は令和２年度から「データ駆動型農業の実践・展開支援事業」により、データを活用した農業の実践体制の構築を支援している。

### （３）後年度の財政負担

「ぎふ農業活性化基本計画」の中間見直し年である令和10年度までは支援を継続する。

### （４）事業主体及びその妥当性

事業主体：市町村、農業者が組織する団体

品目や地域ごとに導入するシステムを検討する必要があることから、事業主体は妥当である。

# 県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

## (事業内容)

補助事業名	データ活用イノベーション推進事業
補助事業者（団体）	市町村、農業者が組織する団体 （理由）品目や地域ごとに導入するシステムを検討するため
補助事業の概要	（目的）県農業の生産力向上を図る （内容）農業における様々なデータを分析・活用するためのサービス、アプリを導入して作物の増収や高品質化を図り、自身の経営の発展を目指す農業者等に対し、導入に係る費用の一部を補助
補助率・補助単価等	定率 （内容）1／2以内 （理由）他事業との均衡
補助効果	農業生産に係る様々なデータが分析・活用され、収量性・収益性が向上する
終期の設定	終期 令和10年度 （理由）ぎふ農業活性化基本計画（2026～2030年度）（仮称・令和8年3月策定予定）の中間見直し年

## (事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 多収・高品質生産による農業者の所得向上を実現する。
--

## (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6年度末)	R8年度 目標	R9年度 目標	R10年度 目標	終期目標 (R10年度)	達成率
①データを活用した栽培を行う産地数	8	12	16	20	20	40%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和6年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)</p> <p>2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)</p> <p>1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%)</p> <p>0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>データ活用が十分進んでいない品目・産地については、データを活用できる人材の育成を進め、データ活用体制の整備を行う必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>農業のDX化による農業構造の変革は喫緊の課題である。その取り組みを促進するためにも、継続的な支援が必要。</p>
---